

★ 生育はやや遅れ気味で中干し時期に入りました
 ★ 6月14日頃から、早生品種で幼穂形成期となる見込み

1 君津地域の生育概況

5月は中旬に日照時間が短くなりましたが、気温は高めで推移しました。そのため、4月下旬までに移植され、低温や強風害を受けて生育が遅れていたほ場も、回復傾向にあります。茎数は「平年並み」～「やや少ない」で推移していますが、早生品種を中心に、中干しをするのに十分な茎数を確保しているほ場が多く見受けられます。一方で、草丈は長く、「粒すけ」以外はやや徒長気味です。それぞれのほ場の生育状態を確認し、中干し等の適切な管理を行いましょ。

また、4月20日植え「ふさおとめ」で6月14日頃から幼穂形成期（出穂25日前、幼穂長1mm）になる見込みです。6月は平年並みの気温となる予報ですが、高温になる時期であり、生育が進む可能性が高くなっています。早めに幼穂を確認し、今後の管理に生かしましょう。

2 生育調査ほの調査結果（6月1日）

品種		田植え日	葉令	草丈(cm)	茎数(/株)	茎数(/㎡)	単葉葉色
ふさおとめ① (袖ヶ浦市)	R3年	4/13	9.5	40.5	28.4	440	44.9
	平年値	4/16	9.6	38.5	30.2	464	45.1
	平年比	-3	-0.1	105%	94%	95%	-0.2
ふさおとめ② (袖ヶ浦市)	R3年	4/16	9.7	45.6	35.0	540	46.2
ふさこがね (木更津市)	R3年	4/19	8.6	32.1	13.9	266	41.9
	R2年	4/23	8.0	30.1	11.4	216	38.6
コシヒカリ (君津市)	R3年	4/25	8.1	40.2	21.7	369	37.7
	平年値	4/27	7.7	36	28.1	437	41.3
	平年比	-2	+0.4	112%	77%	84%	-3.6
粒すけ① (君津市)	R3年	5/3	7.5	27.5	11.4	181	34.6
	R2年	5/2	8.0	32.0	21.9	357	43.8
粒すけ② (木更津市)	R3年	4/16	9.4	37.5	30.1	557	42.8
	R2年	4/21	-	37.7	22.4	423	44.0

※ふさおとめ①の平年値は平成23年～令和2年の平均、コシヒカリの平年値は令和1、2年の平均。ふさおとめ②は令和3年から新たに調査ほ場になったため、平年値はありません。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切り替えを進めています。切り替えをご希望の方は、下記までご連絡ください。

連絡先 鐘ヶ江(かねがえ) y.knge@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299(電話)

3 これからの管理のポイント

① 「ふさおとめ」「ふさこがね」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安
ふさおとめ	4月20日	6月14日頃	幼穂形成期～幼穂形成期から7日後頃
ふさこがね	4月20日	6月16日頃	幼穂形成期から7日後頃

※幼穂形成期の10日～15日後までが冷害危険期になります。

② 幼穂形成期を知ることの重要性について

最近、基肥一発肥料が多く使用されるようになってきていますが、幼穂形成期を知ることは今でも重要です。なお、生育・登熟期間中の気温等により日数は前後します。

- ・出穂期…幼穂形成期から25日（出穂期とは、穂がほ場のおよそ半分出てきている状態）
- ・成熟期…出穂期から各品種一定日数経過後（「ふさおとめ」は33日、「ふさこがね」は37日、「コシヒカリ」は38日）

近年問題となっている斑点米カメムシ類や紋枯病等の防除は出穂期を基準に行うことが重要であり、散布適期を知るためにも幼穂形成期を知ることが重要となります。

③ これからの水管理について

上記①の幼穂形成期の予測日を目安に観察し、幼穂が確認できたら速やかに入水しましょう。また、出穂後2週間までは湛水条件を保つようにしましょう。

④ イネカメムシを見かけたら当所に連絡をお願いします Tel 0438-23-0299

近年、県北を中心に発生しているイネカメムシ（体長1.3cm、体は楕円形で黄土色）は、斑点米カメムシの一種ですが、多発すると斑点米が多くなるだけでなく、不稔やくず米の発生が多くなって減収する被害を及ぼします。君津地域では今のところ被害は出ていませんが、今後、警戒する必要がある害虫です。



全長 1.3cm 程度。穂に下向きにとまる。



楕円形で、体色は黄土色。

⑤ 後期除草剤を使用する際の注意点について

とりこぼした雑草や後から発生してくる雑草に効果を発揮する剤である後期除草剤は、「落水」状態で散布、「湛水」状態で散布する剤があります。大まかな分類として液剤は「落水」状態で、粒剤は「湛水」状態で散布するものが多いですが、使用前にラベルの確認をしましょう。

⑥ （三島ダムの水位低下による濁水への対策として）節水への御理解と御協力を！

6月上旬まで降雨が少ない状況であり、今後の梅雨の降雨状況によっては濁水となる可能性があります。中干しが始まる時期になりますが、かけ流し防止や漏水防止による節水への御協力を今後もお願いします。

※ 次号は「6月25日頃」発行予定